



平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年1月31日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 スクロール

コード番号 8005 URL <http://www.scroll.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 堀田 守

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営統括部長 (氏名) 杉本 泰宣 TEL 053-464-1114

四半期報告書提出予定日 平成30年2月13日 配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	46,653	5.2	1,947	41.5	2,055	43.1	△478	—
29年3月期第3四半期	44,351	△8.1	1,377	△35.5	1,436	△36.9	960	△52.8

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 △169百万円 (—) 29年3月期第3四半期 1,488百万円 (△17.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	△14.06	—
29年3月期第3四半期	28.32	28.29

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	40,416	22,002	54.2
29年3月期	37,962	22,495	59.1

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 21,915百万円 29年3月期 22,434百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
30年3月期	—	5.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	60,000	1.9	1,300	4.6	1,400	3.6	△1,000	—	△29.34

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）－、除外 一社（社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期3Q	34,818,050株	29年3月期	34,320,650株
② 期末自己株式数	30年3月期3Q	730,685株	29年3月期	295,293株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期3Q	34,033,090株	29年3月期3Q	33,906,324株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は、〔添付資料〕3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法について）

四半期決算補足説明資料は、平成30年1月31日に当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(四半期連結損益計算書関係)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、雇用・所得環境の改善が続くなか緩やかな景気回復基調がみられました。しかしながら、小売業界におきましては、消費者の節約志向のぶり返しや天候不順の影響による個人消費の減速のほか、人手不足の深刻化、業態を超えた競争の激化など、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような事業環境のなか、当社グループは、事業ポートフォリオと収益基盤の確立に重点を置いた中期経営計画「みらい2018」の2年目にあたり、通販事業、eコマース事業、化粧品事業及びソリューション事業の各事業をしっかりと稼げる安定収益事業へ成長させるべく、目標達成に向けグループ一丸となって取り組んでおります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高46,653百万円（前年同四半期比5.2%増）となりました。利益面におきましては、営業利益1,947百万円（同41.5%増）、経常利益2,055百万円（同43.1%増）となりました。しかしながら、当第3四半期連結会計期間において、連結子会社である株式会社ナチュラピュリアファイ研究所及び株式会社T&Mののれんの減損損失を計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純損失は478百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益960百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりです。

当社は、中期経営計画「みらい2018」の完遂を目指すなかで「総合通販」から「複合通販」へ変革を遂げております。今後、複合通販のさらなる進化を目指し、当社グループの事業分野、収益構造を明確にするため、セグメント区分を変更しております。これに伴い、第1四半期連結会計期間より、報告セグメント変更をしており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報）」をご参照ください。

なお、セグメント別の売上高は連結相殺消去後の数値を、セグメント利益又は損失は、連結相殺消去前の数値を記載しております。

① 通販事業

通販事業におきましては、働く女性向け商材の新規媒体の発行や商材ミックス型の媒体の拡充を行うとともに、カタログ掲載商品数やページ数を見直し、配布の効率化を推進するなど売り場の強化と収益力の向上に努めてまいりました。また、組合員ニーズの把握に努め、機能性インナーをはじめとした戦略商品を多柄・多色・多サイズで展開させるなど、商品企画にも注力してまいりました。

以上の結果、売上高は26,215百万円（前年同四半期比3.3%減）となり、セグメント利益は1,551百万円（同200.4%増）となりました。

② eコマース事業

eコマース事業におきましては、外部モールを中心とした店舗間競争がより一層激化している状況のなか、年末商戦を中心とした大手外部モールでのイベントへの対応を強化し、受注の拡大を図ってまいりました。また、新たな海外仕入ルートを開拓するなど商品力の強化に努めるとともに、依然として増加している海外需要に対する受注の獲得に向け積極的に取り組んでまいりました。このほか、取扱商材ジャンルの拡大による事業成長を目指し、メンズブランド雑貨を扱う『L I F E R O B E』、カラーコンタクトレンズを扱う『C r y s t a l o r b』の2つのECサイトを新規出店いたしました。

以上の結果、売上高は9,554百万円（同11.4%増）となり、セグメント利益は141百万円（前年同四半期はセグメント利益5百万円）となりました。

③ 化粧品事業

化粧品事業におきましては、プライベートブランド化粧品において、中国での販路開拓として大手チェーン店で販売するための取組みを強化するなど、引き続き海外展開に注力してまいりました。また、国内においても、訪日顧客向けの販売促進活動を積極的に実施するとともに、主力商品『豆乳よーぐるとぱっく玉の輿』の関連商品や期間限定商品を順次投入し品揃えの強化に努めてまいりました。このほか、オーガニックコスメブランド『T V & M O V I E』を展開する株式会社T&M及び自然派化粧品ブランド『草花果実』を展開する株式会社キナリを買収し、事業成長に向けた体制の構築に取り組んでまいりました。

以上の結果、売上高は3,700百万円（前年同四半期比95.9%増）となり、セグメント損失は74百万円（前年同四半期はセグメント利益682百万円）となりました。

④ ソリューション事業

ソリューション事業におきましては、ECソリューション部門を立ち上げ、通販システムパッケージ『e シェルパモール』の成約に向け、セミナーや展示会での積極的な販売促進活動に取り組んでまいりました。また、新規顧客の獲得による物流代行サービスの受注拡大やBCP対策の要望に対応するため、通販ソリューション3PLの全国展開に向けた拠点の整備を推進してまいりました。

以上の結果、売上高は6,832百万円（前年同四半期比8.2%増）となり、セグメント利益は347百万円（同2.7%減）となりました。

⑤ その他

その他事業におきましては、不動産賃貸事業において、自社保有物流施設等の不動産賃貸を行っております。また、保険事業においては、引き続き、全国で開催しているマネーセミナーを起点とした共同募集の拡大に努めてまいりました。

以上の結果、売上高は350百万円（同21.5%減）となり、セグメント利益は109百万円（同35.8%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は40,416百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,453百万円増加いたしました。これは主に売掛金の増加によるものであります。

(負債)

負債は18,413百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,946百万円増加いたしました。これは主に未払金及び借入金の増加によるものであります。

(純資産)

純資産は22,002百万円となり、前連結会計年度末に比べ493百万円減少し、自己資本比率は54.2%（前連結会計年度末は59.1%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成29年4月28日の「平成29年3月期決算短信」で公表いたしました平成30年3月期の通期の連結業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日（平成30年1月31日）公表いたしました「特別損失の計上及び連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,833	4,742
売掛金	9,216	11,709
たな卸資産	6,472	6,946
その他	3,155	3,620
貸倒引当金	△289	△283
流動資産合計	23,388	26,735
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,638	4,425
土地	4,614	4,614
その他（純額）	1,117	989
有形固定資産合計	10,370	10,029
無形固定資産		
のれん	1,016	189
その他	916	815
無形固定資産合計	1,932	1,004
投資その他の資産		
その他	2,476	2,877
貸倒引当金	△206	△231
投資その他の資産合計	2,270	2,646
固定資産合計	14,574	13,681
資産合計	37,962	40,416
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,052	2,521
短期借入金	75	2,100
未払金	8,847	10,162
未払法人税等	190	558
引当金	216	126
その他	959	1,076
流動負債合計	12,342	16,545
固定負債		
長期借入金	2,000	589
引当金	114	78
退職給付に係る負債	933	1,015
その他	76	185
固定負債合計	3,124	1,868
負債合計	15,467	18,413

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,812	6,005
資本剰余金	6,742	6,742
利益剰余金	9,396	8,574
自己株式	△166	△335
株主資本合計	21,783	20,986
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	562	889
繰延ヘッジ損益	73	24
為替換算調整勘定	14	14
その他の包括利益累計額合計	650	928
新株予約権	—	2
非支配株主持分	61	84
純資産合計	22,495	22,002
負債純資産合計	37,962	40,416

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	44,351	46,653
売上原価	27,329	29,068
売上総利益	17,021	17,584
販売費及び一般管理費	15,644	15,636
営業利益	1,377	1,947
営業外収益		
受取利息	9	9
受取配当金	34	36
利息返還損失引当金戻入額	5	34
その他	43	55
営業外収益合計	93	135
営業外費用		
支払利息	9	9
為替差損	9	—
その他	14	18
営業外費用合計	33	27
経常利益	1,436	2,055
特別損失		
固定資産除却損	142	37
減損損失	—	※ 1,710
その他	0	5
特別損失合計	142	1,752
税金等調整前四半期純利益	1,294	303
法人税、住民税及び事業税	419	688
法人税等調整額	△105	62
法人税等合計	313	751
四半期純利益又は四半期純損失(△)	981	△447
非支配株主に帰属する四半期純利益	20	30
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	960	△478

（四半期連結包括利益計算書）

（第3四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日）
四半期純利益又は四半期純損失（△）	981	△447
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	192	326
繰延ヘッジ損益	319	△48
為替換算調整勘定	△5	0
その他の包括利益合計	507	278
四半期包括利益	1,488	△169
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,467	△199
非支配株主に係る四半期包括利益	20	30

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

※ 減損損失

当第3四半期連結累計期間（自平成29年4月1日至平成29年12月31日）

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

用途	種類	場所	減損損失 (百万円)
その他	のれん	東京都中央区等	1,710

当社グループは、減損損失の算定に当たって、原則として報告セグメント単位に、投資の意思決定を行う事業を基礎として資産のグルーピングを行っております。なお、連結子会社については規模等を鑑み会社単位を基礎としてグルーピングを行っております。なお、遊休資産及び、賃貸用資産等については物件毎に一つの資産グループとしております。

のれんに関しては、連結子会社である株式会社ナチュラピュリファイ研究所及び株式会社T&Mにおいて株式取得時に想定していた収益が見込めなくなったため、のれんの全額1,710百万円（株式会社ナチュラピュリファイ研究所 858百万円、株式会社T&M 851百万円）を減損損失として計上しております。なお、当該資産の回収可能価額は、使用価値により算定しており、回収可能価額を零として評価しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間（自平成28年4月1日至平成28年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	通販 事業	eコマース 事業	健粧品 事業	ソリュー ション 事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	27,120	8,580	1,889	6,314	43,904	446	44,351	—	44,351
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	27	—	365	679	1,072	277	1,349	△1,349	—
計	27,148	8,580	2,255	6,993	44,976	723	45,700	△1,349	44,351
セグメント利益	516	5	682	357	1,560	80	1,641	△204	1,436

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業及び保険事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額には、未実現利益△172百万円、セグメント間取引消去△31百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成29年4月1日至平成29年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	通販 事業	eコマース 事業	化粧品 事業	ソリュー ション 事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	26,215	9,554	3,700	6,832	46,303	350	46,653	—	46,653
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	42	1	188	968	1,201	360	1,562	△1,562	—
計	26,258	9,555	3,889	7,801	47,504	711	48,216	△1,562	46,653
セグメント利益 又は損失（△）	1,551	141	△74	347	1,965	109	2,074	△18	2,055

（注）1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業及び保険事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失（△）の調整額には、未実現利益11百万円、セグメント間取引消去△30百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、中期経営計画「みらい2018」の完遂を目指すなかで「総合通販」から「複合通販」へ変革を遂げております。今後、複合通販のさらなる進化を目指し、当社グループの事業分野、収益構造を明確にするため、セグメント区分を変更しております。これに伴い、従来、「通販アパレル事業」、「通販インナー事業」、「通販L F事業」、「通販H&B事業」及び「ソリューション事業」の5つの区分としていた報告セグメントを、第1四半期連結会計期間より、「通販事業」、「eコマース事業」、「化粧品事業」及び「ソリューション事業」の4つの区分に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（のれんの金額の重要な変動）

「化粧品事業」において、第1四半期連結会計期間に株式会社T&Mの全株式を取得し、当社の連結子会社となったことから、のれん963百万円を計上いたしました。また、第2四半期連結会計期間に株式会社キナリの全株式を取得し、当社の連結子会社となったことから、のれん211百万円を計上いたしました。このほか、当第3四半期連結会計期間に、株式会社ナチュラルピュリファイ研究所及び株式会社T&Mにおいて、株式取得時に想定していた収益が見込めなくなったため、のれんの全額1,710百万円（株式会社ナチュラルピュリファイ研究所 858百万円、株式会社T&M 851百万円）を減損損失として計上しております。